

## 横田の空兵 迅速な滑走路修復作業を演練

*Yokota Airmen practice rapid runway repair*

November 1, 2021

By Airman 1st Class Brooklyn Golightly  
374th Airlift Wing Public Affairs

第374施設中隊の空兵は10月25日、サムライ即応監査演習の一環として、模擬の空爆で生じたがれきの除去と迅速な滑走路の修復作業を行った。

第374施設中隊の空兵は戦闘態勢を維持しながら訓練を行い、演習のシナリオに基づいて、敵の攻撃を受けた際に基地が迅速な空輸と支援運用を再開できるようにするための滑走路修復技術を演練した。

第374施設中隊エンジニアリング小隊監督官トーマス・ミラー上級曹長は、「第374施設中隊は、被害状況の調査、施設や設備の修復、そして航空機が離着陸できるように滑走路の整備を行う。飛行場が攻撃された際は、あらゆる被害に優先順位をつけ、特に重要な施設や設備を優先する。そしてエンジニアたちは、(被害を受けた滑走路を)迅速な修復法を実践して飛行場を再開させる」と述べた。

差し迫った脅威がある時には、基地のエンジニアはより大規模な修理ができるようになるまで、特定の方法で迅速に修復を行う。

第374施設中隊飛行場被害担当官ライアン・スタンシル小尉は、「作業を早くできるようにするため、実際の脅威を想定した訓練を行っている。比較的大きな損傷の穴には、繊維強化ポリマーマットを使用する旧来の方法の方が早く対処できる。1980年代に行われていたこの方法を、我々は“レガシー・クレーター・リペア”と呼んでいる」と述べた。

航空機の主要な拠点である横田基地は、太平洋地域での空輸活動を維持し実践するための重要な役割を果たしており、エンジニアは有事の際に航空機を飛ばすための鍵となる。

第374施設中隊の空兵は、基地の戦闘準備態勢の一つである迅速な滑走路修復作業を行うための訓練を行い、絶え間ない空輸活動とミッションパートナーへの支援を可能にしている。

